

## あ と が き

今年度より、本校の校内研究は、「自ら学び、考えを深めることができる児童の育成 ～論理的思考を養うための指導法の工夫～」を研究主題として、1年目の研究がスタートしました。

高齢化、グローバル化、人工知能の進化等により、予測困難な時代が到来すると言われている中で、これからの学校教育では、子供たちが様々な変化に向き合い、他者と共同して課題解決していくことが求められています。これからの子供たちが将来身につけていかなければならないことの一つとして、多くの人と関わる中で様々な問題を共に考えるために、「自分の考えを根拠や理由をもち、筋道を立てて説明する力」である「論理的思考力」が必要になります。本校の校内研究で追求していくものは、これからの激動の時代には必要不可欠なものであると言えます。

この必要不可欠な力である「論理的思考力」をどうすれば子供たちに身につけさせられるのか、研究初年度に際して、全職員で共通理解を図るために、まず理論研究を行いました。山梨大学の先生方のお力添えをいただき、算数科・国語科での論理的な考え方や、具体的な手立てについて充実した学習会を開くことができました。また、学習会で学んだことをもとに、「学習課題」の工夫、「発問」の工夫、自分の考えを説明する「場面設定」の工夫を主な手立てとして、研究授業・一人一実践・ウェルカム授業を行いました。コロナ禍で、研究授業を参観することは感染予防上難しい面もありましたが、これら理論研究と授業実践を1年目から計画的に行うことができたことは、学んだことを実際に授業に生かすことができたという点で、大きな成果であったと言えます。さらに、どの授業を見ても、子供たちが友達の意見を真剣に聞き、根拠となる考えを熱心に伝えようとする姿が見られたことも、大きな成果の一つです。

今年度の研究は、紀要の完成とともに一旦区切りとなりますが、まだ始まったばかりの研究ですので、改善すべき点は今後さらに追求し、来年度へと繋げて参ります。子供たちが、相手も自分も納得できる意見を考え、建設的な意見交換ができるよう、さらなる手立てを講じていけるよう研究を進めていく所存です。

結びに、学習会・授業研究会で懇切丁寧な御助言・御指導をいただきました、山梨大学の早川健教授、茅野政徳准教授、両先生方に厚く御礼申し上げます。

教頭 藤原 裕一